

施策評価シート【分野別施策】

施策名				関係部			
1－③		生涯学習や芸術・文化活動の環境を充実する		市民部、社会教育部			
所管事業に関連する成果指標							
指標名	単位	計画 策定時	実績値				目標値 31 年度
			27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	
各種講座・講習会への参加者数（年間）	人	48,314	51,614	49,000※	46,845		49,000
博物館・美術館の特別展の観覧者数（年間）	人	133,008	141,727	148,097	137,906		138,900
関連事業							
○地域の人材発掘・活用事業○多様な学習推進事業○魅力ある美術展覧会事業○美術教育の普及・体験事業○博物館教育普及活動推進事業○博物館特別展事業○無形文化財保存事業○囲碁文化振興事業○崇善地区地域交流・市民活動拠点づくり推進事業							
決算額							
	28 年度		29 年度		30 年度		31 年度
事業費（千円）	104,294		83,345				
執行率（％）	95.06		93.05				
施策の推進に向けた主な取組の「成果」							
<p>●市民や文化団体の意見等を踏まえて（仮称）新文化センターの検討を庁内関係課と連携して進めるとともに、市民センターの解体設計に着手しました。</p> <p>●地区公民館の講座や利用団体の活動において登録人材を活用するとともに、積極的な講師登録と活用が図れるよう各種団体等への周知に取り組むことで、地域人材の発掘・活用を図りました。</p> <p>●中央公民館での市民大学講座、市民アカデミーや地区公民館での高齢者学級、家庭教育学級や自主事業を開催し、地域住民の学習活動を支援しながら、現代的な課題等の多様な学習機会を提供しました。</p> <p>●「リアル（写真）ゆくえ展」等の展覧会を開催し、優れた美術作品に接する機会の充実を図るとともに、「遊んでのびのび赤ちゃんアート」等のワークショップを開催し、気軽に美術活動に取り組める機会を提供しました。</p> <p>●地質分野や歴史分野の特別展を開催するとともに、展示図録を刊行しました。また、教育普及事業の成果を紹介した「博物館文化祭」を開催し、市民の生涯学習の糧としました。</p> <p>●民俗芸能継承団体の地域公演活動や後継者育成等を支援するとともに、ひらつか民俗芸能まつりを開催し、市内に守り伝えられてきた郷土の民俗芸能を公演することで、無形文化財の保存と伝承を図りました。</p>							

●（公財）平塚市まちづくり財団と連携し、第 22 回湘南ひらつか囲碁まつり 1000 面打ち大会を開催するとともに、女流棋聖戦の誘致、各種囲碁大会、女性・子どもを対象にした囲碁教室等を実施した他、囲碁サミット 2017 に参加し、「囲碁のまちひらつか」を全国に発信しました。

●崇善公民館及び市民活動拠点の機能を併せ持つ複合施設整備を進めるため、地元説明を重ね、施設レイアウトの細部を調整しました。また、建設請負者（リース会社）を決定し、着工に向けて、景観審議、開発調整等を実施しました。

施策を推進する上での「課題」	課題解決を図るための「取組方針」
<p>●身近な地域で人材を発掘し、活用していけるよう、地区公民館における人材登録を進め、指導者の登録数を増やしていく必要があります。</p> <p>●地区公民館での各種講座について、多くの市民に受講してもらう必要があります。</p> <p>●美術展覧会は、美術に関心を持つ人を増加させる取り組みが必要です。また、美術教育の普及・体験は、幅広い年齢層を対象としたプログラムを行う必要があります。</p> <p>●博物館では、展示等を通じ学習機会を提供しつつ、次の時代の市民のために更なる調査収集成果を積み上げる必要があります。</p> <p>●文楽人形芝居の保存と活用のため、継承者の高齢化への対策や民俗芸能への理解と興味の喚起が必要です。</p> <p>●平成 30 年 12 月末に市民センターを閉館するとともに、囲碁のまちの P R 拠点である木谷實・星のプラザも閉鎖します。閉館後も継続して囲碁のまちの P R に努める必要があります。</p> <p>●崇善公民館等複合施設の建設を計画どおり進めるとともに、複合施設であることから、崇善公民館、市民活動センター双方の登録団体が円滑に利用できる環境を整える必要があります。</p>	<p>●地区公民館での各種事業の受講者からのステップアップを含めて、地域で様々な技能を持った人材を発掘・活用することで、活動しやすい環境を整備します。</p> <p>●社会情勢や地域の課題を捉えた講座を企画立案します。</p> <p>●1 年を通して、世代や内容などバランスのとれた展覧会を企画します。また、美術に親しみ、美術への関心を高めるためのワークショップの充実を図ります。</p> <p>●展示事業の効率を高めるため話題性の創出を様々な角度から試みます。また、調査研究活動をより計画的に進めます。</p> <p>●子どもを対象とした人形浄瑠璃芝居体験教室等の開催や民俗芸能まつり等を継続的に実施し、民俗芸能の P R を進めるとともに、各団体への活動支援を行っていきます。</p> <p>●（仮称）新文化センターが開館するまでの期間、中央公民館の市民ギャラリーの一部において、囲碁の展示や囲碁教室を行うなど、（公財）まちづくり財団と連携しながら P R を進めます。</p> <p>●崇善公民館等複合施設の所管課で利用方法を協議しながら、施設の相互利用等も含めて決定し、利用団体向けの説明会等により周知をしていきます。</p>

※指標名「各種講座・講習会への参加者数（年間）」の平成 28 年度実績値について、美術館の美術教育の普及・体験事業ワークショップ等の参加者数を訂正したため、平成 30 年度の公表時において、「48,818（人）」から「49,000（人）」に修正しています。